

住之江工場の見学者対応設備計画について

1. はじめに

ごみ焼却工場の建設や運営を行うためには、その周辺地域の住民の皆様からのご理解とご協力を得ることが欠かせないものであり、従来のごみ焼却工場が有していたマイナスイメージを払拭し、新しいごみ焼却工場を理解していただくため、見学者への普及啓発活動は、ますます重要な役割を担うようになっていく。

見学者の多くは、環境学習の一環で社会見学に来た小学生などの初めてごみ焼却工場を訪れる方であり、各都市、各工場ともに、ごみ焼却工場の処理工程や設備の内容をできるだけわかり易く説明できるように工夫を凝らした見学者対応設備を設置している。

最近では、工場の設備全体が見やすいように見学者動線に大きなガラスを用いたり、煙突上部に展望スペースを設けるなど、ごみ焼却工場そのものを積極的にアピールする事例も見受けられる。

現在の住之江工場の良い特徴を活かしつつ、東淀工場などの最新工場における見学者対応設備を参考に、新しい住之江工場で採用すべき見学者対応設備について検討するものとする。

2. 各ごみ焼却工場における見学者の状況

大阪市・八尾市・松原市環境施設組合の各ごみ焼却工場における見学者対応設備の設置状況及び見学者の受入実績は表—1のとおりである。

舞洲工場以外の工場では、年間2～3千人の見学者を受入れしており、見学者の多くは小学生である。

舞洲工場は、工場外観のデザインをオーストリアの芸術家であるフンデルト・ヴァッサー氏（Hundert Wasser）が行っており、その特徴的な建築デザインやストーリー性のある見学者対応設備から、海外からの見学者を含めて多くの見学者が訪れている。

見学者対応設備については、昭和63年に竣工した住之江工場から平成7年に竣工した八尾工場までの工場に設備的な大きな差異はなく、大会議室においてごみ処理の流れを示したパネル形式の音声説明装置が設置されているほか、各説明箇所には説明用パネルと説明用パネルの記載内容を判り易く音声で説明する装置が設置されている。

舞洲工場以降に建設された工場では、従来の説明装置に加えて、見学者に親しみを持っていただけるようストーリー性を持った映像説明を行うほか、クイズ形式や動かすことのできる参加型説明装置等を設置している。

また、東淀工場では、建設工事が進められていた当時（平成 19 年 4 月）に環境事業局から環境局に組織変更があったことから、ごみ処理だけではなく、地球環境保全をテーマとした内容についても、クイズ形式の参加型映像説明装置等を取り入れている。

表－ 1 各ごみ焼却工場における見学者対応設備の設置状況及び見学実績

工場名	竣工年月	見学者対応設備	平成 26 年度見学者実績 (人/年) (うち小学生)
住之江工場	昭和 63 年 7 月	パネル・音声説明装置	2,582 (2,432)
鶴見工場	平成 2 年 3 月	パネル・音声説明装置	3,011 (2,646)
西淀工場	平成 7 年 3 月	パネル・音声説明装置	3,300 (2,740)
八尾工場	平成 7 年 3 月	パネル・音声説明装置	1,492 (1,306)
舞洲工場	平成 13 年 4 月	パネル・音声説明装置 映像説明装置 参加型説明装置	9,634 (1,437)
平野工場	平成 15 年 3 月	パネル・音声説明装置 映像説明装置 参加型説明装置	3,116 (2,969)
東淀工場	平成 22 年 3 月	パネル・映像説明装置 映像説明装置 参加型説明装置 (環境学習を含む)	2,961 (1,641)

3. 住之江工場における見学者対応設備の特徴と課題

現在の住之江工場の見学者対応設備の特徴と課題は、以下のとおりである。

【特徴】

- ①見学対象である焼却炉等のすぐ近くに見学者用通路があり、近くの窓から実物を直接見ることができる。

- ②大正工場の前身である木津川工場の模型や人力でごみ収集を行っていた頃の肩引き荷車など、ごみ処理の歴史を感じる展示物が残されている。

【 課題 】

- ③見学者動線と作業員動線が輻輳しており、上履きゾーンと下履きゾーンが交錯している。
- ④映像を用いた見学者説明装置がないため、各装置の機能が理解しにくい。

4. 最近の見学者対応設備の特徴と課題

最近建設された東淀工場などのごみ焼却工場における見学者対応設備の特徴と課題は、以下のとおりである。

【 特徴 】

- ①ごみ処理に関する啓発に留まらず、環境全般をテーマにするとともに、小学生の社会見学等を意識し、子供達が興味を持ち、理解しやすい工夫（パネルや映像）がされている。
- ②東淀工場では、「見える化」による、情報の発信が意識されている。

【 課題 】

- ③映像設備を多用しているため、映像機器やソフトの更新等に費用がかかる。
- ④主に子供向けの内容となっており、幅広いニーズに対してフレキシブルな対応が難しい。
- ⑤見学者設備スペースが複数階や広範囲にわたり、安全性の観点（見学者が作業用スペースに間違っ入らないか等）から、工場職員が案内することが基本であり、来場には事前の予約等が必要となっている。

5. 住之江工場における見学者対応設備の考え方

前述のような内容を踏まえて、現在の住之江工場見学者対応設備の良い特徴を活かしつつ、新しい住之江工場で採用する各種設備の仕組みや環境的な配慮について判り易く説明するほか、より良い見学者対応設備を目指し、以下のような観点で検討を進める。

- ①焼却炉等の設備を直接見ることができる展示を行う。
- ②ごみ処理の歴史をリアルに感じることができる展示を行う。
- ③ごみ処理や発生エネルギーに関する情報の「見える化」を積極的に行う。
- ④「行動に繋がる」、「生活に活かせる」環境教育の場を提供する。
- ⑤市民が安全かつ気軽に来場できる開放的な空間を確保し、市民に開かれた施設を目指す。